〔論　文〕

日本語教師は「イメージ」を教えられるのか
――カタカナ語教育を考える　その２――

中　山　惠利子

Ⅰ　はじめに

河原崎（1989）や丸山（2003），中山他（2008）といった先行研究は，日本語教育におけるカタカナ語教育の問題点は「教材」と「指導」である，と指摘している。中山（2011）ではそのうちの「教材」について，日本語教材がカタカナ語を教えることができているのかという視点で，「イメージ」１語を取り上げ，総合教科書112冊について調べた[1)]。その結果，「イメージ」の基本的な語義や用法を扱っているものは112冊中２冊しかなく，ほとんどの総合教科書が「イメージ」を教えることができていないという結論に達した。しかし，教材には様々な制約があり，教材を変えることは難しいのが現状である。そこで，「教材」と「指導」の２つの問題点のうち，教師の指導力を上げるほうが効果的だと考えた。その際の教師の指導力というのは，教材にカタカナ語が出てきたときに，その語の体系（語義や例文や用法等）を知識として持ち，その教材がその語の体系のどの部分を教えているのかを把握でき，もし偏りや不足があるならば必要に応じて補足できる力のことだと考えた。

本稿では，日本語教師のカタカナ語の指導力を，教材を検討したときと同様に「イメージ」を取り上げて検討する。教師が「イメージ」の体系を知識として持っているのかという点についてインタビュー調査によって明らかにしていく。

Ⅱ　調査の概要

本稿で扱う調査は，2009年12月から2010年１月にかけて日本語教師43人を対象に行ったインタビュー調査である。教師の頭の中にある「語の体系」をありのままの状態で知るために，主な調査対象者は筆者ら３名の調査者[2)]が日頃から接している人とし，可能な限り対面での調査とした。電話による調査の場合は旧知の間柄の，本音で話してもらえるであろう人に限った。また，調査対象者には事前に何も知らせず，その場で質問を投げかけ，調査の間は辞書を引いたり，誰かに聞いたりすることは控えてもらった。したがって，ここで注意すべきは，本調査の結果は日本語教師が何も調べずに自力で教える場合のことであり，人によっては教える前に辞書等を調べるなどして，自分の有する知識だけではなく，事前に知識を増やしてから教壇に立つ場合もあるため，実際の教育現場で教える結果とは異なる可能性がある[3)]，ということである。

質問は以下の４つである。

①「イメージ」が教材に出てきたときにどのようにその意味を教えますか。例えば，訳語を示すとか，説明するとか…。

②（①の回答に関係なく全員に）もし，「イメージ」を和語や漢語を使って説明するとしたら，どのように説明しますか。

③「イメージ」を使って例文を作ってみてください。

④「イメージ」を教える際に気をつけたいことがありますか。

このほか，調査対象者自身について，教育歴，所属教育機関，主に教えている学習者の使用言語[4)]

無断転載禁止

とレベルを尋ねた。調査結果については一覧にして巻末の表18に示す。ここでは，調査対象者について属性別にまとめておく。

表１　教育歴

教育歴	人数
30年以上	1
20年以上30年未満	13
10年以上20年未満	12
10年未満	17

平均は13.35年である。対面で本音が聞ける教師という点が調査対象者選定の際に最優先した条件だったため，教育歴は考慮せずに調査を行ったが，期せずして，若手，中堅，ベテランとバランスは取れていた[5)]。最も短い人で１年，長い人は35年である。

表２　所属教育機関

教師別		機関別	
教育機関	人数	教育機関	人数
海外の教育機関のみ	3	海外の教育機関	14
大学のみ	6	大学	18
日本語学校のみ	13	日本語学校	30
複数の教育機関	21		

所属教育機関は，現在所属しているところ以外に経験した機関も回答してもらった。教師別では，複数の機関で教えた経験がある人と一種類の機関で教えた経験がある人とが半々である。機関別にみると，日本語学校が最多であり，43人中30人が経験している。

表３　学習者の使用言語・レベル

学習者の使用言語	人数	学習者のレベル	人数
１つ	5	初級～中級	14
２つ	6	中級～上級	7
３つ	3	多様	22
多様	29		

教えている学習者の使用言語は「多様」という回答が多く，レベルも半数の教師が「多様」としている。レベルの「多様」というのは，入門や初級レベルから上級，超級，バイリンガルまで，である。「初級～中級」は日本語学校で教えている教師に多く，「中級～上級」は大学で教えている教師に多い[6)]。

以上，調査対象者の属性を概観すると，教育歴は若手，中堅，ベテランとバランスがとれており，複数の機関での教育経験を持つ人と一種類の機関でのみ教えた経験がある人とがほぼ半々である。また，使用言語もレベルも多様な学習者に教えた経験がある人が半数ほどいることが分かる。

無断転載禁止

Ⅲ　調査の結果

4つの質問項目別に調査の結果をまとめていこう。

1．「イメージ」の意味の教え方

表4は43人の日本語教師の「イメージ」の意味の教え方についてまとめたものである。まず，表の用語について説明しておこう。「体験させる」というのは，例えばある有名人を取り上げ，その人についてどう思うか考えさせて，「今あなたの頭の中にあるものがイメージですよ」と言う，というように「イメージ」する場面を体験させてわからせる，ということである。「原語を示す」というのは「イメージ」の原語‘image’を学習者に教える，という意味であり，「母語訳を示す」というのは「イメージ」の中国語訳や韓国語訳など学習者の母語に応じて訳語を与える，ということである。また，「原語を示す or 体験させる」は，原語がわかる学習者には原語を示すが，わからない学習者には場面を体験させてわからせる，「原語を示す＆体験させる」は，原語を示したうえで，体験させてわからせる，「原語を示す→絵を描く」は，まず原語を示すが，それでもわからなければ絵を描いて教える，という意味である。

表4　「イメージ」の意味の教え方

教え方	人数	教える際に取る方法の数
何もしない or 辞書を調べさせる	1	0または1
何もしない or 説明する	1	
体験させる	6	1
原語を示す	5	
例文を示す	4	
説明する	3	
原語を示す or 説明する	2	
原語を示す or 体験させる	1	
原語を示す→絵を描く	1	1または2
原語を示す＆例文を示す	3	2
例文を示す＆説明する	3	
原語を示す＆体験させる	1	
原語を示す＆説明する	1	
母語訳を示す＆説明する	1	
例文を示す＆絵を描く	1	
体験させる＆説明する	1	
原語を示す or 母語訳を示す＆例文を示す	1	
原語を示す or 母語訳を示す＆体験させる	1	
原語を示す＆例文を示す＆説明する	2	3
原語を示す＆辞書を調べさせる＆説明する	1	
原語を示す＆絵を描く＆説明する	1	
母語訳を示す＆例文を示す＆説明する	1	
辞書を調べさせる→例文を示す＆体験させる＆説明する	1	1または4
計	43	

無断転載禁止

表４から，「イメージ」という語を教える方法は多様であることがわかる。「原語を示す」「体験させる」「説明する」「例文を示す」「母語訳を示す」「絵を描く」「辞書を調べさせる」と，「何もしない」を除き，７種類の方法がある。そのうち，「母語訳を示す」と「絵を描く」という教え方は必ずほかの教え方と組み合わされる。

43人中21人は１つの方法のみを選択しているが，19人はいくつかの方法を併用している。最も丁寧な教え方をする人は，３つの方法を用いている５人である。「原語を示したうえで，例文を示しながら説明する」「原語を示し，辞書を引かせたうえで，補足説明する」「原語を示したうえで，絵を描きながら説明する」「母語訳を示したうえで，例文を示しながら説明する」と回答している。また，辞書を調べさせてわからなかったら，という条件付きではあるが，「例文を示し，場面を体験させ，説明する」と場合によっては４つの方法を取るという回答もあった。反対に，最も手をかけない人は，「何もしないor 辞書を調べさせる」と回答している１人である。その人によれば，「「イメージ」という言葉は難しくないので，理解できそうなら触れない。わからないという学生には，辞書を見ろと言う」ということであり，学習者がわからなくても，教師は辞書を見るよう指示するだけである。

この教え方の違いは，教える対象となる学習者のレベルによる，という傾向が見られる。「初級～中級」を教える14人（表２参照）と「中級～上級」を教える７人の教え方を比較してみたところ，「初級～中級」を教える14人中９人（64.3%）が２つ以上の方法で教え，「中級～上級」を教える７人中６人（85.7%）までもが１つの方法でしか教えないことがわかった。最も手をかけない教師も「中級～上級」を対象に教えている。「イメージ」そのものが旧日本語能力試験２級の語であり，初中級レベルで導入する語であるため，「初級～中級」を教える教師が丁寧に教えるのは当然の結果とも言えよう。

次に，表５に教え方による内訳をまとめておく。人数のうち，（　）のついているのは，「or」で複数の教え方を挙げており，条件によってはいずれかの教え方を選ぶという人数である。たとえば，「原語を示す」は20人が選択しているが，そのうち５人は原語がわからない学習者の場合には原語を示さず，ほかの教え方で教える，ということである。したがって，必ず「原語を示す」方法で教えるのは15人ということになる。

表５　「イメージ」の教え方の種類

教え方の種類	人数
原語を示す	20－（５）＝15
説明する	18－（４）＝14
例文を示す	16－（２）＝14
体験させる	11－（３）＝８
母語訳を示す	４－（２）＝２
絵を描く	３－（１）＝２
辞書を調べさせる	３－（１）＝２
何もしない	２－（２）＝０

「イメージ」という言葉を教える場合に，「原語を示す」方法を必ず取る日本語教師は15人，「説明する」方法，「例文を示す」方法を必ず取るのは14人ずつ存在する。以上の３つの方法は，「イメージ」に限らず幅広く行われている教え方である。また，８人の教師が「イメージ」する場面を与えて意味を理解させるという「体験させる」方法を取っている。この教え方はすべての語に可能な教え方ではなく，「イメージ」ならではの特徴的なものであろう。これら４つの教え方が主な方法であることがわかる。

ただし，「原語を示す」「母語訳を示す」に対しては，「原語や訳語は理解に問題があるので，説明する」，「訳語はどう受け取っているか分からないので，説明した後に質問に答えてもらうとか文を作ってもらうとかして確認する」，「訳語や言葉と置き換えるような教え方をしていない。学生の捉えた意味が

無断転載禁止

ずれている場合の説明に注意する」といった意見がある。また，「説明する」には，「言葉であまり説明しない」「説明しない。例文でわからせる」，「辞書を調べさせる」には，「辞書を引いて意味を理解させるより例文で教えたほうがいい」という意見もある。

2．「イメージ」の説明

次に，「イメージ」を和語や漢語を使用して説明するとしたらどのような説明をするか，と投げかけた。この問については，教え方如何にかかわらず，全員に答えてもらった。ただし，１人が複数の語義を回答していたり，１つの語義について２つの説明をしていたりするため，人数は43人を超えている。

表６　「イメージ」の説明

番号	説明内容	人数	語義
1	・印象 ・抱いている感じ ・何かを聞いて見て，感じる雰囲気 ・何かを見たり聞いたりしたときに頭の中にこういう感じと出てくるもの	23 1 1 1	A
2	※その言葉を聞いたときに頭に浮かぶ様子・考え ※何かを聞いて頭に思い浮かぶもの ※何かを見たり聞いたりしたときに頭の中に浮かぶ映像のようなもの ※何かについて心に思い浮かぶもの ※１つのものについてぼんやりと持っているもの，１つの像のようなもの，像，心象，１つの姿 ※たぶんこのようだろうと自分が想像したものやこと ・思い浮かべる姿や景色	1 1 1 1 1 1 1	B1
	＊頭の中に描く像 ＊頭の中で浮かぶもの ＊想像されるもの	1 1 1	
3	・連想	2	B1
	＊想像	6	
4	※お母さんを動物に例えると何になるかということを考えること自体がイメージだと説明する[7)]。 ※ある言葉を聞いて頭の中に何がありますか。それがイメージです。 ※例を挙げて，連想するようなことをしてから，「それがイメージですよ」。 ※○○という言葉があります。何を考えますか。それがイメージですね。 ・黄色い果物と聞いて頭の中に出てきたもの，それがイメージだというように説明する。	1 1 1 1 1	B1
	＊何かを想像する場面を提示して，今思い浮かべているものが「イメージ」だと説明する。	1	
5	・思い浮かぶ ・思い浮かぶこと ・思い浮かべること	1 1 1	B2
	＊頭で考え，頭の中に出てくること	1	
6	・連想する	2	B2
	＊想像する	6	
7	・映像	1	D
8	・○○に対してどういうイメージをもっていますか，という質問をしてわかってもらう。言葉では置き換えられない。印象とは違う。 ・絵を見せて，「この絵を見てどんなイメージを受けますか」「この絵のイメージは気持ちがいいですか」「同じイメージを持つ他の絵を知っていますか」と疑問文を投げかける。	1 1	A
9	・説明はしない	1	―

表６は，43人の「イメージ」の説明をその意味や形態から９つに分類したものである。「イメージ」を説明するということは，すなわち「イメージ」の語義を説明することになる。そこで，表の右端の欄に中山（2011）で分類した「イメージ」の語義の記号を付した。参考のため，表７に中山（2011）の語義と例文を記しておく。

無断転載禁止

表６で説明の前に「※」を付したものは，説明からはＢ１と思われるが，もしかしたらＡのつもりで説明しているのかもしれない，と思われるものであり，「＊」を付したものは，説明からはＢ１やＢ２と思われるが，もしかしたらＣ１やＣ２のつもりで説明しているのかもしれない，と思われるものである[8)]。このことは，A，B，Ｃの語義は意味の上で連なっている，ということを示唆しており，明確な分類は難しいところである。しかし，本稿では，教師の説明の表現からＡやＣの意味が汲み取れないものは，Ｂとしている。

説明内容で問題になるのは，「イメージ」を説明するのに，「イメージ」を使って説明している２人（８番目）である。２人とも疑問文で質問をして理解させようとしているが，これは筆者が教わる側だとしたら理解できないであろう。

また，教え方に関係なく，「もし，「イメージ」を和語や漢語を使って説明するとしたら，どのように説明しますか」と質問したにもかかわらず，「説明しない」と回答した教師が１人（９番目）いる。この回答についてはⅢ-３-２）「不適切な例文」において取り上げる。

表７　「イメージ」の語義分類―中山（2011）より

A	名詞	知っている物事から受ける全体的な印象，感じ。 ※何らかの価値判断を含むことが多い。 ・日本料理には健康にいいというイメージがある。
B1	名詞	見聞きしたものごとから，思い描くもの・思い浮かべるもの・連想するもの。 ※映像を思い描くことが多い。・熱帯気候のタイに雪が降ったと言われても、イメージがわかない。
B2	動詞	見聞きしたものごとから，思い描くこと・思い浮かべること・連想すること。 ※映像を思描くことが多い。・赤い色から何をイメージしますか。
C1	名詞	自分の頭の中で新しく創り出したもの。 ・お風呂に入っているときに、新しい作品のイメージがわいてきた。
C2	動詞	自分の頭の中で新しく創り出すこと。 ・これまで誰も考えたことがないようなロボットをイメージしてみた。
D	名詞	画像，映像。 ・スキャナーを使えば、イメージを簡単にコンピューターに取り込める。
E	動詞	模倣すること。 ・新作のお菓子は桜の花びらをイメージして作られた。
F1	名詞	Ｎ１から受ける印象をもとにして，あるいはＮ１から自由に思い描いて，作ったＮ２。 ・彼女は秋のイメージの香りを身にまとって壇上に現れた。
F2	動詞	Ｎ１から受けた印象に基づいて，またはＮ１から自由に思い描いたものをＮ２に／として表現すること。 ・このピアノ曲は動物たちの愛らしい動きをイメージしている。
G	名詞	構想・全体像 ・新政権の教育政策のイメージがようやく見えてきた。

表８　説明する語義別教師数

語義	人数
A	28
B１	24
B２	12
D	1

表８はその語義を説明すると回答した教師の数を示している。これによると，Ａが最多で，Ｂの名詞（Ｂ１）がそれに続き，３番目にＢの動詞（Ｂ２）となっている。新聞から抽出した「500用例」[9)]に見られる「イメージ」の語義の比率も，Ａが７割弱で最も多く，名詞と動詞（Ｂ１＋Ｂ２）を合わせたＢ

無断転載禁止

が15％弱で２番目であったことから，この２つの語義を押さえておけば「イメージ」の大方を理解できることになる。表８を概観する限りでは，基本的な語義を押さえていることが分かり，さすが日本語教師だと言えそうであるが，この点についてはさらに表９で検討しよう。

表９　教師別説明する語義

語義数	人数	説明する語義	人数
3	1	A＋B１＋B２	1
2	17	A＋B１	9
		A＋B２	6
		B１＋B２	1
		B１＋D	1
1	24	A	10
		B１	11
		B２	3
0	1	なし	1
計	43	計	43

教師別に説明すると回答した語義（表９）を見ると，基本的な語義であるＡと，Ｂの名詞と動詞を３つとも回答したのは１人だけである（Ａ＋Ｂ１＋Ｂ２）。「500用例」におけるＢの名詞用法は少ないため，ＡとＢ２（動詞）を回答した教師６人も「イメージ」の基本的な語義を押さえていると考えると，全部で７人となるが，これは43人の16.3％に過ぎない。

また，１つの語義しか回答しない教師が24人（55.8％）と半数を超え，２つの語義を挙げた人は17人（39.5％）に減り，３つとなると１人（2.3％）になる。語義別に見た表８では「さすが日本語教師」と言いかけたが，教師別に見ると決してほめられた数字ではないと言えよう。

３．「イメージ」の例文

１）例文数

さらに，「イメージ」を使って例文を作ってみてほしいと依頼した[10)]。例文作成（以下，作例という）は日本語教師に求められる能力の一つである上に，日々の授業で慣れているはずであるが，作例に時間を割いた人も少なくなかった。

表10　例文数別人数

例文数	人数	合計例文数
１例	31	31
２例	11	22
６例	1	6
計	43	59

１例しか作例できなかった人は，31人と43人中７割を超え，２例作例した人は11人と25.6％で，１人だけが６例挙げている。表６で語義を２つ挙げられた人は19人と４割を超えていたが，例文となると２つ挙げられる人は11人と25％にまで落ち込むのである。作例は語義説明より難しいということであろう。

無断転載禁止

表11　語義数と例文数の相関

（　）の数字は動詞用法の例文数

語義数	例文１例	例文２例	例文６例
なし	1	0	0
1	21（2）	1（1）	1（1）
2	8（2）	10（8）	0
3	1（1）	0	0
計	31	11	1

また，表11を見ると，語義を複数思いつくことができる人は，当然のことながら，例文も複数作ることができる傾向にあることがわかる。語義を複数思いつき，複数の作例ができる人ほど動詞用法の例文を作成していると見て取れる。ただし，Ⅲ-３-３）「例文の語義」で後述するように，動詞用法の作例をしている教師が，動詞用法の語義を説明しているとは限らない。

語義と例文の「数」の相関を見たら，続いて「内容」の相関を見るのが順序であろう。しかし，その前に例文の整理をしておかなければならない。というのも，作成してもらった59の例文を眺めると，不適切な文が見受けられるからである。

２）不適切な例文

表12　文法に問題がある例文

	教師が作成した例文	適切な例
1	日本のイメージは何ですか。	→日本にどのようなイメージがありますか。 →日本にどのようなイメージを持っていますか。 →日本から／と聞いてイメージするのはどのようなものですか。　A
2	京都のイメージは何ですか。	→京都にどのようなイメージがありますか。 →京都にどのようなイメージを持っていますか。 →京都から／と聞いてイメージするのはどのようなものですか。　A
3	この色のイメージは何ですか。	→この色にどのようなイメージがありますか。 →この色にどのようなイメージを持っていますか。 →この色から／を見てイメージするのはどのようなものですか。　A
4	ベトナムのイメージはアオザイだ。	→「ベトナム」から／と聞いてイメージするのはアオザイだ。　（B2）
5	「日本」という言葉を聞いた時のイメージは京都とか富士山です。	→「日本」という言葉を聞いたときにイメージするのは京都とか富士山です。　（B2）
6	林先生のイメージはバラの花だ。	→林先生のイメージは楚々としたバラの花だ。 →林先生には楚々としたバラの花のイメージがある／を持っている。　A
7	彼女はバラの花のイメージだ。	→彼女には楚々としたバラの花のイメージがある／を持っている。　A
8 ＊	○○さんのイメージはどうですか。	【場合によっては正しいが、間違い誘発の可能性】 →○○さんにどのようなイメージがありますか／を持っていますか。　A
9	○○さんのイメージは可憐です。	→○○さんには可憐なイメージがあります／を持っています。 →「○○さんは可憐だ」というイメージがあります／を持っています。　A
10	プーチン大統領のイメージは冷たいです。	→プーチン大統領には冷たいイメージがあります／を持っています。 →「プーチン大統領は冷たい」というイメージがあります／を持っています。　A
11	京都のイメージはお寺が多いです。	→京都はお寺が多いです。【不要】 →京都にはお寺が多いというイメージがあります／を持っています。 →「京都はお寺が多い」というイメージがあります／を持っています。　A

無断転載禁止

12	日本に来る前に日本人のイメージは勤勉だと思っていたが、来てみたらそのイメージは壊れた。	→日本人は勤勉だと思っていた【不要】 →日本人には勤勉なイメージがあった／を持っていた →「日本人は勤勉だ」というイメージがあった／を持っていた　A
13	昔の日本人のイメージは勤勉だと言われていた。	→昔の日本人は勤勉だと言われていた。【不要】 →昔の日本人には勤勉なイメージがあると言われていた。　A
14	日本人のイメージは「まじめ、よく働く」です。	→日本人には「まじめ、よく働く」というイメージがあります／を持っています。 →「日本人はまじめ、よく働く」というイメージがあります／を持っています。 A
15	日本のイメージは、「人がよく働く、新幹線、桜、町がきれいだ」などです。	→日本には「人がよく働く、町がきれいだ」というイメージがあります／を持っています。また、日本からイメージするのは「新幹線、桜」などです。 →「日本は人がよく働く、町がきれいだ」というイメージがあります／を持っています。また、日本からイメージするのは「新幹線、桜」などです。　A（B2）
16	あの人のイメージはどんなイメージですか。【重複】	→あの人にどのようなイメージを持っていますか。　A
17	○○先生のイメージはどんなイメージですか。【重複】	→○○先生にどのようなイメージを持っていますか。　A
18	世界一の美女はどんな人をイメージしますか。	→世界一の美女と聞いて、どのような人をイメージしますか。　B2
19	日本の若い人についてどんなイメージを持ちますか。	→日本の若い人についてどのようなイメージを持っていますか。 →日本の若い人と聞いてどのようなイメージを持っていますか。　A

まず，「日本のイメージは何ですか」と質問されて違和感なく答えられるであろうか。「イメージ」はモノではないので，一言で何と答えられるようなものではない。しかし，このような質問（1～3番）を作成してしまうということは，「ベトナムのイメージはアオザイだ」というような文（4～7番）も生みだすことになる。これは「ベトナムからイメージするものはアオザイだ」と言うべきであろう。また，8番に「○○さんのイメージはどうですか」という質問文がある。これは「○○さんのイメージはいい／悪いです」という回答を要求する場合には問題はない（文法的に問題があると言い切れない場合には表12の番号の下に＊を記している）。しかし，「○○さんのイメージは可憐です」といった文（9～13）を生み出す原因になると考えられる。さらに，14番の例文「日本人のイメージは「まじめ，よく働く」です」も「　」があるために，一見問題がなさそうに思える。しかし，14番の例は「　」を外すと，そのままでは文にならない。

×日本人のイメージはまじめ，よく働くである。

この点に気をつけないと，「日本人のイメージはまじめです」「日本人のイメージはよく働きます」等の誤用文を生み出す原因になるであろう。したがって，14番のような例文を使って教えることは避けたい。15番の例文「日本のイメージは，「人がよく働く，新幹線，桜，町がきれいだ」などです」は4番と14番の問題が混在している例である。16番，17番の例文は文中に「イメージ」が重複してしまっている。「○○のイメージは」と言ってから「何ですか」も「どうですか」も変だと逡巡した結果「どんなイメージですか」にしてしまったのではないかと推測される。18番の例文は，日常的に使ってしまう文ではある。しかし，話し言葉としての省略がある上に，「世界一の美女」が「イメージする」と誤解される可能性がある文であり，日本語教育の現場で語を導入する際に挙げるべき例文ではない。最後の19番の例文は，「○○と聞いてどのようなイメージを持ちますか」と「○○についてどのようなイメージを持っていますか」とが混乱した例であろう。導入に使う例文であれば，形はきっちりと入れるべきであろう。

表12に挙げた日本語教師の作例を見ると，18番，19番以外の17例が「○○のイメージは□□です」という文型を用いている（6番のみ「○○は□□のイメージです」）。しかし，このような文型は「500用例」を見てもほとんどなく，多くは，「○○には□□のイメージがある／強い」「○○は□□のイメージを持っている」等のコロケーションを伴う。では，どうして日本語教師は「○○のイメージは□□で

無断転載禁止

す」という文型を使い，間違った文を作ってしまう人が多いのであろうか。新しい語を導入する場合には既習で平易な文型を使うことが求められる。「○○のイメージは□□です」は初級の最初に習う平易文であるので，理にかなっている。その上，「イメージ」という語には，この平易な文型が使える例文が存在することも，この文型を多用する引き金となっていると思われる。すなわち，「日本のイメージはいいですよ」というように「イメージがいい，悪い」という場合は「○○のイメージはいいです／悪いです」が言える。この２つの理由から「○○のイメージは□□です」が作例されてしまう，と考えられるのではないだろうか。

表13　文法以外に問題がある例文

	教師が作成した例文	問題の所在
20	日本という国の名前を聞いてどんなイメージを持ちますか。	日本に暮らしている学習者には不適切な質問だが，日本をあまりよく知らない人には問題ない。 A
21	初めて見た料理にどういうイメージを持ちますか。	この質問には答えられない。「初めて見た料理」がどのような料理なのか視覚資料が必要である。 A
22	新年の祝い菓子というとどんなイメージがあるか。	「新年の祝い菓子」について知識がなければ答えられない。 A
23	幸せのイメージは…。	文が不完全のため，何が言いたいのか不明。 ?
24	イメージが出てこない。	何が言いたいのか不明。 ?
25	十年前の女の人と今の女の人のイメージの違い	文が不完全のため，何が言いたいのか不明。 ?
26	やさしいイメージがある	○○にはやさしいイメージがある。文が不完全。 A
27	危険なイメージがある	○○には危険なイメージがある。文が不完全。 A

表13に挙げた８例は表12のように文法が間違っているというわけではない。20番の例文は日本で教える場合には不適切だということである。21，22番の例文は質問の設定に無理がある上に，どのような回答を求めているのか疑問である。23～27番の例文は文が不完全なため，意味も不明であり，これらを例文として挙げるのは問題である。

Ⅲ-２「「イメージ」の説明」で，「説明しない。例文でわからせる」と回答した教師の例文は25番の「十年前の女の人と今の女の人のイメージの違い」である。この例文で「イメージ」の語義がわからない学習者に「わからせる」のは無理であろう。なお，「例文を示す」という教え方をする教師はこの人を含め16人（表５参照）おり，彼らが作成した例文は全部で19例ある。その19例のうち，問題のある文が11例と57.9％（問題のある例文を作成した教師は16人中11人，68.8％）も存在する（表18参照）。例文で教えるのに，その例文が間違っていたら学習者は理解できないであろう。

以上，見てきたとおり，59例中27例と実に45.8％の例文が不適切なものであった。また，３割弱の17例が，日本語教師であるがゆえに例文を平易化した結果，間違えていると考えられるものである。さらに皮肉なことに，「例文を示す」という教え方をする教師の間違っている例文数は57.9％と増加する。

３）例文の語義

では，次に，教師が作成した例文中の「イメージ」の語義を分類してみよう。表14に例文中の語義分類とその例文数を，また，右欄には表８に示した，その語義を説明するとした教師の人数を付け加えた。

なお，教師が作成した不適切な文については，表12，13の右欄の右端に語義を分類している。ただし，表12の（　）は適切な文に訂正した場合に生まれる語義であるため，ここでは除外する。よって表12の15番はＡの語義のみとなり，４，５番は除外する。さらに，表13のうち23～25番の３例は例文の意味が不明なため，語義分類ができず除外する。したがって教師が作成した例文は59例から５例を除外

無断転載禁止

した54例を対象に見ていくこととする。

表14　語義別例文数・説明する教師数

語義	例文数	説明する教師数
A	39	28
B 1	0	24
B 2	14	12
D	―	1
E	1	―
不明	5	1（説明しない）
計	59	66

これを見ると，例文と説明とで，B 1の人数に大差があることに気が付く。B 1の語義を説明すると回答した教師は24人もいるが，B 1の語義で例文を作った人は1人もいない。

次に，教師が説明すると回答した語義と作成した例文中の語義とを照合してみる。

表15　説明と例文の語義の対応

●対応しているもの

説明の語義	例文の語義	例文数	
A	A	23	
B 1	B 1	0	
B 2	B 2	6	
計		29／54	53.7%

●対応していないもの

説明の語義	例文の語義	例文数	
B 1	A	14	
B 1	B 2	8	
B 2	A	2	
B 2	E	1	
計		25／54	46.3%

●説明はあっても例文がないもの

説明の語義	例文	説明数
A	―	6
B 1	―	5
B 2	―	2
D	―	1
計		14

説明と例文の語義は，54の例文のうち，29例と半数強が一致しており，25例と半数弱がずれていることがわかる。対応しているもののうち，最も多いのはA→Aであり，Aは半数の教師の頭の中に語義と例文がセットで存在していると言える。対応していないものはB 1が最も多く，B 1→A，B 1→B 2と，B 1の語義を説明していながら例文はAやB 2で作成している。B 1は，語義の説明はAに次いで思いつきやすいが，作例は難しいということなのであろうか。B 1の語義についての，教師の説明

無断転載禁止

は，単に「想像」「何かを見て聞いて思い浮かんだもの」というものであり，評価が加わっているとは思えない説明であるので，Ｂ１に分類したが，実際に例文を作成すると，例えば「彼女は何でも許してくれるイメージがある」「日本に来る前に日本に対してどんなイメージをもっていましたか」というように評価が加わり，Ａの例文となる。しかし，そのずれに教師たちは気がついていないようであり，ＡとＢ１の語義を区別して認識していないと考えられる。

また，Ｂ１→Ｂ２ならびにＢ２→Ａというように，動詞と名詞が語義説明と対応していない例文が10例と，全例文の２割近くあり，Ｂ２→Ｂ２と対応している例文６例より多い。

そのほか，語義の説明はしても，それに該当する例文を作らなかった例が14例ある。

表16　教師別の語義と例文の対応

（人）

対応している人	一部対応している人	対応していない人	語義説明のない人	計
14	11	17	1	43

教師別にみると，説明の語義と作例した例文の語義がすべて対応している人は14人と32.6％に過ぎず，まったく対応していない人は17人（39.5％）と対応している人を上回ることがわかる。

４．「イメージ」を教える際の注意点

最後に，「イメージ」を教える際に注意すべき点を尋ねてみたところ，以下の結果を得た。

表17　「イメージ」を教える際の注意点

（人）

原語との違い	用法	教授法	類義語との違い
18	13	7	4
表記	語の意味上の性質	発音	なし
3	1	1	6

自由に回答してもらっているため，１人でいくつかの注意点を挙げている人もおり，合計は43人にはならない。

最多の「原語との違い」とは英語の‘image’とカタカナ語の「イメージ」は発音や表記だけでなく，語義や用法が異なると教えるということである。カタカナ語を教える際に，この「原語との違い」に注意すると回答する教師は少なくない。中山（2006）においても「原語との違い」を挙げる教師は211人中169人と80.1％であった。しかし，筆者は，数多くの語彙を導入しなければならない日本語教師が１つ１つの語の原語との違いを教えられるのか，また，たとえ教えることができたとして，それが有効なのか等疑問を抱いている。この点については別稿で検討したい。

次いで「用法」であるが，「用法」とは，動詞用法があるとか，語のコロケーション，＋－どちらの評価にも使える等，その語の使われ方を説明する，というものである。語の使われ方に注意するという回答は，「用法」以外にも「表記」「発音」「語の意味上の性質」があり，合わせて18人となっている。「語の意味上の性質」というのは，「イメージ」は固定されたものではなく，各自がもつ「イメージ」は違うものであることを注意する，ということである。「イメージ」というカタカナ語だけでなく，語を教える際に注意すべき点は，意味と用法であろう。意味と用法がしっかり導入されていれば使えるようになる。

なお，「イメージ」を教える際に注意すべき点は「ない」と６人（うち１人は「思いつかない」との回答）が回答している。

無断転載禁止

Ⅳ　おわりに

本稿は，日本語教師が「イメージ」を教えるときに，「イメージ」の体系を知識として持って教えているのか，という点について調べてきた。「イメージ」の体系とは，名詞と動詞の語義（A＋B1＋B2またはA＋B2），それに対応した適切な例文，そして語の使われ方である。

まず，表９でも見たとおり，基本的な語義である名詞Ａと動詞Ｂ２を挙げている人は７人である。また，表18を見ると，その７人（１～７番）のうち，名詞Ａと動詞Ｂ２の例文を作成した人は４人（２・３・５・６番）に減る。さらに，その例文が適切である人は３人（２・５・６番）である。そして，その３人のうち，教える際に語の使われ方に気をつけるとする人は，「表記」を挙げた１人（６番）だけとなる[11)]。つまり，「イメージ」の基礎的な語義やそれに対応した例文や語の使われ方を教えることができる人は43人中１人ということになる。この１人は，本調査の結果からだけではあるが，「イメージ」の体系を知識として備えている日本語教師だと言って良いであろう。

多くの教師は，語義説明に偏りがあったり，作例に問題があったり，語義と例文とが対応していなかったりして，「イメージ」の語の体系を知識として備えているとは言いがたい。しかし，たとえ日本語教師であっても，何の前触れもなく突然ある語について質問されたときに，複数の語義を即時に挙げたり，語義のそれぞれに適切な例文を作成したりできるであろうか。自分で調査しておきながら，筆者にもその自信はない。

本調査から浮かび上がった問題のうち，最も看過できないのは不適切な例文であると考える。調査対象者43名が作成した例文59例中27例と半数近くが不適切なものであった。さらに，語義を教える際に「例文を示」して教えると回答した教師の例文の間違いは６割近くまで増えるのである。例文で語義を教えるのは有効であるが，その例文が間違っていたとしたら，学習者は語義を正確に理解できないであろうし，たとえ語義を理解できたとしても，最初から誤用を学ぶこととなってしまう。例文の文法上の間違いの多くは，平易化にかかわっていた。このことは，教師が学習者にわかりやすく教えるために，例文を頭の中だけで考えてしまい，実際に使われている場面を考えて作例をしていない，語の用法を考慮していない，ということを浮き彫りにしている。むろん，今回日本語教師が作成した半数強は問題のない例文であり，また，Ⅱ「調査の概要」でも述べたように，「本調査の結果は日本語教師が何も調べずに自力で教える場合のことであり，人によっては教える前に辞書等を調べるなどして，自分の有する知識だけではなく，事前に知識を増やしてから教壇に立つ場合もあるため，実際の教育現場で教える結果とは異なる可能性がある」。しかし，それを差し引いたとしても，この結果は自戒を込めて深刻に受け止めなければならないであろう。

まずは，日本語教師が日々の授業の中で何気なく提示している講義や例文が，本当にそれでいいのか，ということを自問しなければ，始まらない。その上で，日本語教材で教えるべきよく使われるカタカナ語について，実際の用例に基づいた語義と例文があり，それらが教えるべき優先順に並べられ，用法が整理され，教える際に教師が陥りやすい問題点等を付している教師用参考書が必要ではないか，と考える。忙しい教師が授業の前に参考にできるような本である。2010年の日本語教育学会の国際大会では，その参考書の見本を持って臨み，意見交換を通して，その必要性をさらに強く感じた。日本語教師のためにも，ひいては日本語学習者のためにも完成を急ぎたい。

無断転載禁止

表18　インタビュー調査一覧

	意味の教え方	補足	語義説明	語義分類	語義数	例文	例文の語義分類	動詞	不適切な例文	例文数	注意点	注意点分類	教育歴	教育機関	母語	レベル
1	原語（or母語訳）&例文		①印象 ②連想 ③連想する	A B1 B2	3	北京といえば何をイメージしますか。	B2	○		1	正しい表記	表記	9	日本語学校	多様	初～中級
2	体験	場面を示して、学生を考えさせる。その考えていることがイメージだという。	①印象 ②想像する ③連想する	A B2 B2	2	①赤のイメージといえば、情熱だ。 ②目を閉じてください。海の中をイメージしてください。	A B2	○		2	印象との違い	類義語との違い	1	日本語学校	中国・ベトナム	中上級
3	母語訳&説明		中国の学生だったら①「印象」 ②「想像する」を示す	A B2	2	日本のイメージは何ですか。 ○○をイメージして考えてください。	A B2	○	×	2	なし	なし	2.5	海外の大学・日本語学校	中国・ベトナム	多様
4	原語＆例文		①想像する ②印象	B2 A	2	白いふわふわしたものでどんなものをイメージしますか。	B2	○		1	英語との違いに気をつける 使い方に注意する	原語との違い 用法	10	日本語学校	多様	初～中級
5	体験	例を挙げて説明する。「日本をどう思っていますか」と聞いて、今考えたものがイメージだという。	①印象 ②（する動詞）なら「思い浮かぶ」	A B2	2	①～にどんなイメージを持っていますか。 ②（何かの言葉を聞いて）イメージするものはありますか。	A B2	○		2	原語の意味と違うことを確認しておく。	原語との違い	10	大学・日本語学校・ボランティア	多様	多様
6	原語＆例文＆説明	原語を出して例文を出し、説明を加える	①印象 ②頭で考え、頭の中に出てくること	A B2	2	①そんなことやるとイメージが悪くなるよ。 ②タイと聞いて何をイメージしますか。	A B2	○		2	正しい表記 英語とは違うということ	表記 原語との違い	2	海外の教育機関	タイ	初～中級
7	原語		①印象 ②思い浮かぶこと	A B2	2	①日本人のイメージは「まじめ、よく働く」です。 ②イメージが出てこない	A ?		× ＊	2	英語と意味も発音も違うということ	原語との違い	8	日本語学校・海外の教育機関	多様	初～上級
8	何もしないor説明	レベルによる（中上級なら知っているから説明しない・初中級は文脈によって説明する）	①頭の中に描く像 ②印象 抱いている感じ	B1 A A	2	①自分が面接を受けていることをイメージしながら練習する。 ②日本人はあまり否定的なことを言わないイメージがある。	B2 A	○		2	レベルが上の場合は原語との違いを説明する。	原語との違い	19	日本語学校（専門学校）	中国・韓国	初～上級
9	原語＆例文	例文を出してわからせるようにするが、最終的には原語を出す	①印象 ②想像	A B1	2	①あの人のイメージはどんなイメージですか。 ②赤い色で何をイメージしますか。	A B2	○	×	2	日本人が英語の意味と同じに使っているか、どんな意味で使っているかに注意する。 漢字に直すのではなく、日本人が使っているものはある程度使えるようにする。	原語との違い 教授法	12	大学・日本語学校・研修機関	多様	初～上級
10	原語→絵	原語が伝わらない場合は絵を描いて教える	①印象 ②想像	A B1	2	①お相撲さんのイメージはどんなものですか。 ②日本に来る前の日本のイメージはどんなものでしたか。	A A			2	なし	なし	6	日本語学校・海外の教育機関	ブラジル、その他いろ	初～中級
11	説明		①想像 ②印象	B1 A	2	世界一の美女はどんな人をイメージしますか。	B2	○	×	1	名詞か動詞かの使い分け 結びつく言葉	用法 用法	20	日本語学校	多様	初～中級
12	例文&説明		①印象 ②想像されるもの	A B1	2	～さんのイメージは可愛です。	A		×	1	辞書を引いて意味を理解させるより例文で教えたほうがいい	教授法	5	日本語学校	多様	初～中級
13	例文&説明		①印象 ②頭の中で浮かぶもの	A B1	2	「日本」ということばを聞いたときのイメージは、京都とか富士山です。	?		×	1	英語との違いに気をつける	原語との違い	7	日本語学校	多様	初～中級
14	原語		①印象 ②連想	A B1	2	①プーチン大統領のイメージは冷たいです。 ②赤でイメージするのは夕陽です。	A B2	○	×	2	英語の意味とはずれるということを例文を提示して教える	原語との違い	2	海外の教育機関	ロシア	初～上級
15	体験&説明		①（ある言葉）を聞いて頭の中に何がありますか？それがイメージです。 ②印象	B1 A	2	日本の若い人についてどんなイメージを持ちますか。	A		×	1	印象とイメージは違う。第一印象は会ってそのとき見て感じたことだが、イメージは頭の中に出来上がっている概念。そのとき感じたものではない。	類義語との違い	20	大学・日本語学校	中国（多様）	初～上級
16	原語&体験		①例を挙げて連想するようなことをしてから、「それがイメージです」 ②印象	B1 A	2	昔の日本人のイメージは勤勉だと言われていた。	A		×	1	みんなに意見を言ってもらって自分のイメージだけを押し付けないようにする。	教授法	18	大学	中国・韓国・アメリカ	初～超級
17	例文&説明		①想像 ②想像する	B1 B2	2	初めて見た料理にどういうイメージを持ちますか。	A		＊	1	英語のimageとの違いに気をつける	原語との違い	20	研修機関・海外の教育機関	多様	初～中級
18	辞書→例文&説明&体験	辞書で調べるように言う。それでも分からなければ、例文、場面を出して説明。	①想像（「イメージ」の用例の８０％はこの意味で使われている） ②映像	B1 D	2	幸せのイメージは…。 日本と言えば、○○をイメージする。	? B2	○	＊	2	連想との違い	類義語との違い	11	国際交流機関・日本語学校	多様	多様
19	原語&説明		印象	A	1	Aさんはイメージが悪くなった。	A			1	シではなくジだよ。イメジではなくイメージだよ。	表記・発音	35	大学	多様	中～上級
20	体験		○○に対してどういうイメージを持っていますか、という質問をして分かってもらう。言葉では置き換えられない。印象とは違う。	A	1	日本にどんなイメージを持っていますか。	A			1	訳語や言葉と置き換えるような教え方をしていない。学生の捕らえた意味がずれている場合の説明に注意する。原語とのずれ、自国の言葉とのずれに注意する。「～を描く」「～を持つ」などコロケーションにも注意する。	原語との違い・用法	23	大学	台湾・中国・韓国	中上級

無断転載禁止

21	例文	疑問 文を投げかけるのは考えてもらうため。抽象的なものは辞書を引いても分からないので、自分で考えて形にしてもらう。	絵を見せて、「この絵を見てどんなイメージを受けますか」「この絵のイメージは気持ちがいいですか」「同じイメージを持つほかの絵を知っていますか」と疑問文を投げかける。	A	1	この色のイメージは何ですか。	A		×	1	固定のイメージはない、各人が持つイメージは違う、ということを注意する。	概念	14	日本語学校	英語圏・中国語圏	入門～超級
22	体験	有名な人を挙げて、どう思うかというところからイメージの意味をつなげていく。	印象	A	1	私の中国のイメージは人が多いことです。	A			1	英語の意味につながらないものはその違いを言う。 する動詞もあること。	原語との違い 用法	5	海外の私立大学・日本語学校	スペイン、ベトナム、中国など	多様
23	原語&例文&説明	例を出して説明する	印象	A	1	日本のイメージは、「人がよく働く、新幹線、桜、町がきれいだ」などです。	A		×	1	英語とカタカナ語と漢語はそれぞれ違うことを認識しておく	原語との違い	20	大学・日本語学校・研修機関	多様	初～上級
24	例文＆絵	イメージがいいものと悪いものの絵を示す	印象	A	1	京都のイメージはお寺が多いです。	A		×	1	いろいろな用法を教える 共起する言葉を教える	用法 用法	20	日本語学校	多様	初～中級
25	説明		印象	A	1	～にはいいイメージがある。	A			1	英語の意味とは違うことに注意させる 共起する言葉を教える	原語との違い 用法	8	日本語学校	多様	初～中級
26	例文		印象	A	1	～先生のイメージはどんなイメージですか。	A		×	1	英語との違いを教える	原語との違い	8	日本語学校	多様	初～中級
27	母語訳&説明&例文	説明には例文を出す	何かを見たり聞いたりしたときに頭の中にこういう感じと出てくるもの	A	1	日本の女の人についてどんなイメージを持っていますか。	A			1	訳語はどう受け取っているか分からないので、説明した後に質問に答えてもらうとか文を作ってもらうとかして確認する。	教授法	23	大学	多様	初～上級
28	原語		①印象 ②何かを聞いて見て感じる雰囲気	A A	1 	日本という国の名前を聞いてどんなイメージを持ちますか。	A		＊	1	なし	なし	14	大学・日本語学校	中国（多様）	初～上級
29	原語		何かを見たり聞いたりしたときに頭の中に浮かぶ映像のようなもの	B1	1	新年の祝い菓子というとどんなイメージがあるか。	A		＊	1	なし	なし	22	海外の教育機関（大学）	英語	入門～パイリンガル
30	原語&辞書&説明	英語を板書し、辞書を引かせ、日本語で補足説明をする	たぶんこのようだろうと自分が想像したものやこと	B1	1	カタログで見た服を買いにいったけれど、実際に見たらイメージが違っていたので、買うのをやめた。	A			1	英語（原語）とは違う意味で使われている場合に注意する	原語との違い	14	日本語学校・海外の教育機関	多様	初～上級
31	原語or説明	英語が通じれば英語で一言言う。通じない場合は上級なので日本語で説明する。	何かについて心に思い浮かぶもの	B1	1	林先生のイメージはバラの花だ。	A		×	1	この言葉はこういうときにしか使わないとか、こういう言葉と一緒に使うとかを教えると思うが、イメージについては今は思い浮かばない。	用法	24	大学	英語圏・中国・韓国	中～上級
32	原語	イメージは軽い感じがするとのこと。	１つのものについてぼんやりと持っているもの、１つの像のようなもの「像」「心象」「一つの姿」	B1	1	彼に対して持っていたイメージと実際は違った。	A			1	思いつかない	なし	21	大学・日本語学校・海外の教育機関(大学)	中国・フランス	初級～中級
33	体験	言葉であまり説明しない。できないクラスの場合の設定で回答する。	○○という言葉があります。何を考えますか？それがイメージですね。 何かを聞いて頭に思い浮かぶもの	B1 B1	1	冬と聞いてお鍋をイメージします。 彼女は何でも許してくれるイメージがある。 彼女はバラの花のイメージだ。（名詞の接続例） 危険なイメージがある。（な形容詞の接続例） やさしいイメージがある。（い形容詞の接続例） ～に対してどんなイメージを持っていますか（疑問文）	B2 A A A A A	○	× ＊ ＊	6	①レベルに合わせて必要な言葉を教える。 ②学生にイメージしてもらうところから始める。最初に言葉で教えない ③似ている言葉との違い・・・これを考えようとして途中で何を言っているか分からなくなってしまう・・・（！）	教授法 （教授法） 類義語との違い	13	日本語学校	中国	初～上級
34	原語or説明	母語・レベルによる（原語や原語に近い言語の場合は原語、レベル低ければ原語、説明の意味が分かるレベルなら説明）	その言葉を聞いたときに頭に浮かぶ様子・考え	B1	1	春という言葉で何をイメージしますか。	B2	○		1	動詞用法・「イメージチェンジする」「イメージが変わる」等の用法を教えるほうが使えるようになる（中上級以上）。	用法	25	大学	多様（最多は中国）	中上級
35	体験	原語や訳語は理解に問題があるので説明する	お母さんを動物にたとえると何になるか、ということを考えること自体がイメージだと説明する。	B1	1	将来の自分をイメージしてください。	B2	○		1	例を出す際に身体的なものなど問題になりそうなものは控える	教授法	9	日本語学校	中国	中級
36	例文		思い浮かべる姿や景色	B1	1	銀行員のイメージはどんなものですか。	A			1	どんな言葉と一緒に用いるか	用法	16	大学・日本語学校	多様	初～上級
37	原語（または母語訳）&体験		「黄色い果物」という言葉を聞いて頭の中に出てきたもの、それがイメージだというように説明する	B1	1	日本に来る前に日本に対してどんなイメージをもっていましたか。	A			1	動詞にも名詞にも使える	用法	20	大学・日本語学校・海外の教育機関	多様	初～上級
38	原語or体験	英語のimageと同じだという答えが返ってくることを予測。そうでなければ、場面で考えてもらう（説明する）。	何かを想像する場面を提示して、今思い浮かべているものが「イメージ」だ、と説明する。	B1	1	日本に来る前に日本人のイメージは勤勉だと思っていたが、来てみたらそのイメージは壊れた。	A		×	1	原語との違い	原語との違い	6	大学・ボランティア	アジア他	初級・中級
39	原語&絵&説明	絵を与えたりして説明する	想像	B1	1	～さんのイメージはどうですか。	A		△	1	英語と日本語の意味が違うことがあるので気をつける	原語との違い	3.5	研修機関・海外の教育機関	メキシコ・中国・その他いろいろ	初～中級
40	例文		思い浮かべること	B2	1	京都のイメージは何ですか。	A		×	1	原語とは違うので紹介しない。	教授法	15	大学・日本語学校	多様	初～上級
41	何もしないor辞書	難しくないので理解できそうなら触れない。分からないという学生には辞書を見ろという。	想像する	B2	1	日本人に対して真面目だというイメージを抱く外国人は多い。	A			1	間違えても危険じゃないので、説明しない。あえて説明するとしたら・・・＋－評価どちらでも使える。動詞用法がある。「～に対して・・・というイメージを抱く」という文型。	用法	23	大学・海外の教育機関	多様	中上級
42	説明		想像する	B2	1	ベトナムのイメージはアオザイだ。 ミッキーマウスをイメージして書きました。	? E	○	×	2	なし	なし	4	海外の私立大学・日本語学校	スペイン、中国、ベトナム	多様
43	原語＆例文	説明しない。例文でわからせる。	なし		0	十年前の女の人と今の女の人のイメージの違い	?		＊	1	英語（原語）とは違うということを教える	原語との違い	6	大学・日本語学校	多様	初～上級

無断転載禁止

［謝　辞］

インタビュー調査にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

注

1）「イメージ」を取り上げた理由については，中山（2011）を参照のこと。

2）調査は，中山のほか，田中恵子氏，加藤理恵氏の３名で行った。両氏には謝意を表したい。なお，本稿は中山（2011）と同様，2010年度世界日本語教育大会（台湾・国立政治大学）における発表に基づいている。共同発表者は田中恵子氏，加藤理恵氏である。

3）ただし，「イメージ」という語を教える際に，どの程度の日本語教師が辞書を引くなどして事前に準備するかは不明である。筆者らがインタビューを行った際の感触では，そこまでする教師は少ないと思われる。

4）学習者の使用言語は厳密な調査ではない。たとえば，母語と国の公用語が違う場合，どちらで回答するか等の指示は出していない。また，国籍名で回答している教師もいる。ここでは，多くの教師が「多様」な言語話者に教えている，という結果が重要である。

5）10年未満を「若手」，10年以上20年未満を「中堅」，20年以上を「ベテラン」とする区分は筆者の主観による。また，実年齢とは関係がない。

6）調査対象者の回答「初級～中級」「初～中級」「初級・中級」を「初級～中級」にまとめ，「中～上級」「中上級」「中級」を「中級～上級」にまとめた。

7）「お母さんを動物に例えると何になるかということを考えること自体がイメージだと説明する」とあるが，「考えること」は動詞用法であり，「イメージする」の説明となる。しかし，ここでは，回答者の回答に従い，名詞用法として扱った。

8）インタビュー調査であるため，調査対象者は特定できるが，あなたの説明はどちらの意味なのかと後日聞き直すことはしなかった。それは，後で得た知識を加味する可能性を避けるためである。そのため，本稿における分類は回答者の考えとは異なるかもしれない。特に，「※」でＢとしたものだけでなく，「＊」としたものも，Ｃではなく Ａの可能性があるのかもしれない。しかし，ここでは，説明の文から判断できる意味に限った。

9）『CD- 毎日新聞（東京版)』1994年～2003年の10年間の全記事の本文からサンプリングを行い抽出した500用例を指す。中山（2011）でもこの「500用例」に基づき，表７に示した「イメージ」の語義分類を行った。「イメージ」の語義の比率については中山（2011）p.33を参照のこと。また，「500用例」についての詳細は中山他（2007）を参照のこと。以下，本稿で「500用例」というと，このデータを指すこととする。

10）日本語教師同士で例文と言えば，教えるときの例文だというのは暗黙の了解である上に，前後の質問が教育上の質問であるので，ここで作る例文は教える時の例文だと大方の教師が理解して作例しているはずである。しかし，質問するときに「教える時の例文」と明示していないため，厳密に言えば，回答者の中には教えるということを想定しなかった人も存在するかもしれない。

11）この教師は教育歴が２年の若手である。今回は調査対象者が少ないため，語の体系を知識として有しているか否かと教師の属性については分析していない。

参考文献

河原崎幹夫（1989）「片仮名の指導法」『講座日本語と日本語教育９　日本語の文字・表記（下)』明治書院

中山惠利子（2006）『日本語教育現場におけるカタカナ教育の実態調査』平成17年度～18年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究課題番号17520358　平成17年度研究成果報告書（中間報告書）

中山惠利子・桐生りか・山口昌也（2007）「新聞に見る基幹外来語」『国立国語研究所報告126公共媒体の外来語―「外来語」言い換え提案を支える調査研究―』国立国語研究所

中山惠利子・陣内政敬・桐生りか・三宅直子（2008）「日本語教育におけるカタカナ教育の扱われ方」『日本語教育』138　日本語教育学会

中山惠利子（2011）「日本語教材は「イメージ」を教えられるのか―カタカナ語教育を考える　その１―」『阪南論集　人文・自然科学編』第46巻第２号　阪南大学学会

丸山敬介（2003)『日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本（改訂版)』凡人社

無断転載禁止

［訂　正］

中山（2011）の参考・引用文献に河原崎（1989）を取り上げているが，発行年を「1998」と誤って記している。お詫びして訂正する。

［付　記］

拙稿を前田弘氏の追悼論文として掲載するにあたり，専門が異なること，昨年の続編であること等迷いがありましたが，編集の労をお取りいただいた森重氏に背中を押されました。前田氏と私は，同年で同期入社，同学部同学科所属です。前田氏は留学生教育に理解が深く，留学生担当の私は様々な場面で助けていただきました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

（2011年11月25日掲載決定）

無断転載禁止